

## 「鼻だしマスク」「あごマスク」をしないことで、運氣が上がる。

文・イラスト

中谷彰宏

text &amp; illustration by Akihiro Nakatani

**マ** スクをすると、笑っている人と、ムツとしている人が、くつきり分かれます。

お店の人も、お客様も、マスクが常態になりました。

今まで、人前ではマスクをしないことがマナーだったのが、マスクをすることがマナーになりました。

マスクをする前までは、ニコニコしていた人が、マスクをすると、ムツとした顔になります。

これは、落ち込んでいるからではありません。

その人は、笑顔を口で作っていたのです。

笑顔は、口ではなく、目で作るものです。さらには、体全体で作るのが、笑顔です。

いわゆる「目が笑っていない」という笑顔は、マスクをして口を隠すと、

急に怖くなってしまふのです。

目が笑っていないことは、自分では気づけません。

マスクをした状態で笑顔になり、その顔を写真に撮ってもらうと、わかります。

目が笑っていない人は、急に笑顔ができません。

笑顔は顔の筋肉で作られているので、筋トレと同じく、笑っている回数が多い人は、速く大きく動きます。

ふだん、あまり笑っていない人は、泣いたような顔になってしまいます。

マスクの付け方にも、好感度の差が出ます。

好感度イエローカードは、「鼻だしマスク」です。

苦しいから、つい鼻を出してマスクしている人がいます。

これは、清潔感がありません。好感度レッドカードは、「あごマスク」です。

確かに、マスクは息苦しい。シェフは、味見をしなければならぬ。

味見のために、一瞬した「あごマスク」が、ついそのままになってしまいます。

お客様の前では、きちんとしているつもりでも、「鼻だしマスク」「あごマスク」でいる所を、お客様は見ているのです。

マスクをきちんとつけている人は、イキイキして見えます。

プロアスリートのスカウトマンに、伸びる選手の見抜き方を聞きました。

「ユニフォームを、きちんと着こなせていること」でした。

マスクは、もはやユニフォームの一部です。

マスクをきちんと着こなせることが、プロの証です。

飲食店のスタッフだけに限りません。

あらゆる仕事をする人も、お客さんとしていく場合でも、マスク・ビューティになることで、運が良くなるのです。

マスクをしていると、肺活量も強くなつて、免疫力もアップします。

マスクをしていないと、肺活量も強くなつて、免疫力もアップします。

## Profile

1959年生まれ。主な著作に『哲学の話』『チャンスをつかめる人のビジネスマナー』『迷った時、「答え」は歴史の中にある。』他、1000冊を超す。【中谷塾】で講演活動を行う。2020年オンライン中谷塾【中谷庵】を開始。詳しくは、HPで。<https://an-web.com/>

